

大谷學報

第七十三卷 第二号

平成六年一月三十一日発行

曾我量深における法蔵菩薩の探求……………寺川 俊昭 (1)	大谷学会 春季公開講演会 講演要旨
信仰と自律……………安富 信哉 (18)	東と西の「笑い」の哲学……………多田 稔 (48)
——清沢満之における「修養」の位置——	——夏目漱石とジョージ・メレディス——
盤珪の思想と民衆……………前田 一郎 (31)	悪党と海賊……………網野 善彦 (56)
	平成四年度 寄贈交換誌目録…………… (62)
	築 報…………… (84)
Hieroglyphen der Schwermut. Zu Albrecht Dürers Kupferstich <i>Melencolia I</i> ……………DECKE-CORNILL Albrecht (1)	
デューラー「メレンコリア」の謎(要旨)…………… (24)	

大 谷 大 学
大 谷 学 会

大谷学報 第七十二卷 第三・四合併号

白居易壮年期と道教……………平野 頤照

有と無の相破と相成の意義……………鍵主 良敬

——賢首法蔵の視点——

雲洞谷日吉神社・黄和田日枝神社

所蔵の版本大般若經について……………高橋 正隆

『因縁集』の出典……………後小路 薫

柳田国男における女性と「学問」……………関口 敏美

大学英語教育における四技能……………鈴木 繁一

——授業活動と教育体制——

平成四年度 大谷学会研究発表会 発表要旨

彙 報

大谷学報 第七十三卷 第一号

『皎然集』と賛寧……………河内 昭円

病と死をめぐる儀礼……………高井 康弘

——北タイ平地農村のばあい——

Quenam sint grammatici de suis

rebus sententiae ………Arituncus MIZUNO

(その専門活動についての或る

古典学者の見解……………水野 有庸)

平成四年度 特別研修員研究発表要旨

修士・卒業論文題目一覧

彙 報

THE OTANI GAKUHO

(THE JOURNAL OF
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES)

CONTENTS

Articles:

- A Quest for Bodhisattva Dharmākara
by Soga RyōjinTERAKAWA Shunshō (1)
- Faith and AutonomyYASUTOMI Shinya (18)
—On Kiyozawa Manshi's "Self-Cultivation"—
- Bankei's Thought and the PopulaceMAEDA Ichirō (31)
-
- Hieroglyphen der Schwermut.
Zu Albrecht Dürers Kupferstich *Melencolia I*
.....DECKE-CORNILL Albrecht (1)
-

Résumés of Papers presented at the Public Lecture in the Spring of 1993:

- The Comic Spirit in the Literature of the
East and the West.TADA Minoru (48)
—Sōseki Natsume vs. George Meredith—
- "Akutō" and Pirates.....AMINO Yoshihiko (56)

Miscellaneous:

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

大谷学会規程

第一条 大谷大学に大谷学会を置く。

第二条 本会は真宗学・仏教学・哲学・社会学・史学・文学・国際文化学、その他の学術研究と発表をおこなうことを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するため、左の事業をおこなう。

一、季刊「大谷学報」の発行

二、「大谷大学研究年報」の発行

三、研究会及び公開講演会の開催

四、その他必要なる事業

第四条 1、本会は大谷大学大学院・文学部並びに短期大学のすべての教育職員及び学生をもって会員とする。

2、前項のほか、本会の趣旨に賛同し、役員会において承認されたものは、会員となることができる。

第五条 本会に左の役員を置く。

一、会長

二、委員

三、監事

第六条 会長には大谷大学学長が当り、

会務を統理する。

第七条 1、委員は十名とし、教授会に

おいて互選する。

2、委員は企画・編集・出版等の会務を掌理する。

3、委員の任期は二年とする。但し再任をさまたげない。

第八条 1、監事は二名とし、教授会に

おいて互選する。任期は二年とする。

2、監事は本会の会計を監査する。

第九条 会員は本会の出版物にその研究を発表し、「大谷学報」並びに「大谷大学研究年報」の配布を受け、本会

主催の会合に出席することができる。

第一〇条 会員の会費は年額金四千円と

する。但し、学生会員は貳千円とする。

第一一条 1、本会の経費は会費をもつてこれに当てる。

2、本会の必要経費については、助成金を受けることができる。

第二二条 本会の事務は、教務課の所管とする。

第三二条 この規程の改正には、教授会

の議を経なければならない。

附則 1、この規程は昭和五十六年

四月一日から施行する。

2、昭和三十七年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廃止する。

3、平成五年四月一日一部改正
〈大谷学会委員〉

荒井とみよ 安藤 智信

安藤 文雄 加来 一丸

木場 明志 佐賀枝夏文

鈴木 幹雄 番場 寛

松村 尚子 R・F・ローズ

平成六年一月三十一日発行

大谷学会

編集兼 藤 島 建 樹

発行者 大 谷 学 会

発行所 千六〇三 京都市北区小山上総町
大谷大学内

電話 (〇七五) 四三二一三三(代)
振替 京都 四一八三九三番

印刷者 西 村 明